

東大型① 比喩を翻訳する「どういうことか」

名前：

点数： /18点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 最難関の「どういうことか」は、多くが**比喩の翻訳**。比喩を本文の説明語に置きかえ、指示語・省略を補い、**比喩のことは残さず**言い直す。60字≒要素3つ（1要素15～25字）。

言葉は、世界を切り分けるナイフである。私たちは、切れ目なく続く現実言葉に境界線を引くことによって、はじめて物事を「それ」として取り出すことができる。名づけられていないものは、あるのに見えない。しかし、切り分けられた断面だけを眺めて、世界がもともとそのような形をしていたのだと思いこむとき、ナイフは思考をし
ばる鎖に変わる。

問1 傍線部「言葉は、世界を切り分けるナイフである」とはどういうことか。60字以内で説明せよ。 8点／目標7分

設計のヒント：「ナイフ」を本文の説明（境界線を引く・取り出す）に翻訳。比喩語を答案に残さない。

問2 傍線部「ナイフは思考をしばる鎖に変わる」のは、どのような場合か。60字以内で説明せよ。 10点／目標8分

設計のヒント：「～とき」の直前が答えの核。「鎖」も翻訳する（思考の自由をうばう）。

問1 模範解答（55字前後）

言葉は、連続する現実境界線を引き、物事を個々のものとして取り出し、見えるようにする働きを持つということ。

要素	採点基準	配点
翻訳	「ナイフ」を「境界線を引く（切り分ける）働き」と言い換えている	3点
機能	物事を個々のものとして取り出す・認識できるようにする	4点
形	比喻語を残さず、文末「～こと。」で60字以内	1点

問2 模範解答（55字前後）

言葉が引いた区分にすぎないものを、世界がもともと持っている形だと思いこみ、他の見方ができなくなる場合。

要素	採点基準	配点
条件	言葉による区分（切り分けた断面）を	3点
誤認	世界そのものの形だと思いこむこと	4点
帰結	思考が固定され、他の見方を失う（鎖の翻訳）	3点

添削ワンポイント（よくある失点）

「ナイフのように鋭い言葉だということ」——比喻を別の比喻で言いかえる答案は0点に近い。比喻の翻訳とは、本文中の説明語（境界線・取り出す・思いこむ）への置きかえである。1枚ドリルNo.004（指示語）・No.031（打ち消し）の技が、そのままここで配点になっている。

自分の答案が何点か知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のことばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）